

しよれっと



1
2021 January
vol.245

あけまして
おめでとう
ございます



新年のごあいさつ JA岡山ニュース総集編 2020

農を担う
米麦農家 中山 清司 さん
箕島地区……………10ページ

<https://www.ja-okayama.or.jp/>

JA岡山は、組合員募集中です!

耕そう、大地と地域のみらい。



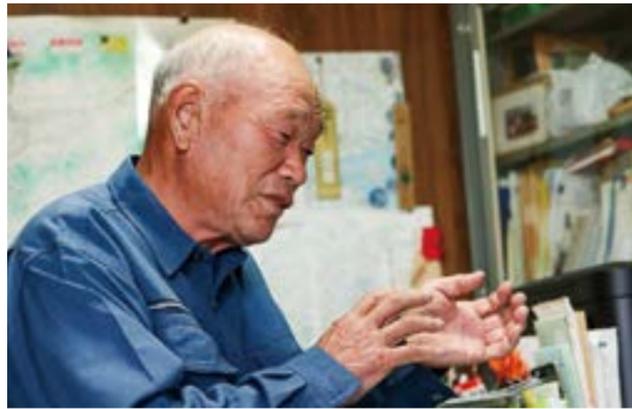
誰もがおいしいと言う 米を作りたい

中山 清司さん

箕島地区：米麦農家

「なかやま きよし」

昭和17年生まれ。米麦、野菜を経営。妻、息子夫婦の4人家族。趣味は旅行。座右の銘は「人より一步先の技術を習得する」。



農業への思いを語る中山さん

12月3日、箕島地区の米麦農家の中山清司さんにお話を伺いました。

地区の農業を受け継ぐ

―就農したきっかけは

我が家は昔から朝日米やい草を栽培しており、農繁期には親の手伝いをしていました。20年ほど前から地域の人が助けてくれたり、田んぼを任せてくださいることが増え、息子にも農業をさせたいという思いもあったた

め、岡山市の認定農業者となり、本格的に農業を始めました。

―農業を始めてからは

農業に関わるようになってからは60年ほどになります。現在では、作業分散のため、ヒノヒカリ、にこまる、朝日、アケボノの4品種の米と麦を栽培し、合わせて11社経営しています。

―栽培上のこだわりは

就農前は製造業を営んでおり、機械や設備が好きなことから常に新しい技術を取り入れるようにしています。

水稲育苗箱全量施肥専用肥料を使い、播種作業時に基肥が施肥できる水稲一発肥料を使用しています。また、JA事業で行っているGIS（地理情報システム）の構築に協力し、ドローン（小型無人飛行機）によるリモートセンシング（上空からの画像分析）を行いました。

農業はもっと省力化できる部分が多いのではないかと感じており、いずれは米の刈り取りからJAへ持ち込むまでの作業を

全て人の手を介さず行うことを理想としています。出来上がったものを機械から機械へなるべくオートメーション化することで人件費や新型コロナウイルス禍においての接触機会を減らす取り組みにもなると思います。出来る限りロスを減らし、コストと時間をかけない農業が目標です。

誰もがおいしいと言う 朝日米を目指す

―今後の抱負は

米は食味を安定させ、麦はタンパク質含有量が高いものを作りたいです。特に米に関しては、この地区では昔から朝日米の栽培者が多かったことから、「誰にも負けないぞ」という思いで栽培しています。小さいころから慣れ親しんだ味なので、消費者の方が「おいしい」とよるこんでくれる米を目指しています。

聞き手.. JA岡山広報担当



野菜は直売所へ出荷しています



JAで行っているリモートセンシングにも協力

野菜



営農部指導課 宮本 大輔

春にむけての準備は1月下旬から
今月号では露地イチゴ冬から春の管理について紹介します。

●追肥
1月下旬に追肥を行います。野菜いちばん等を10平方メートルあたり300gを株元から10〜15cm程度離れて畝の中央または畝の肩部分に施用し土壌と混和します。追肥後少雨なら、灌水を行います。

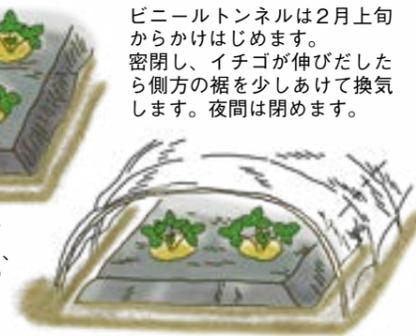
●マルチ被覆
果実汚れや病気を防ぎ、土壌水分の保持や地温上昇、雑草の発生防止のために黒色ポリマルチの被覆または敷きわらをします。マルチをする前に枯れ葉、古い葉を取り除き、十分に灌水をします。トンネル栽培では1月下旬、露地

栽培では2月下旬からマルチかけを行います(資料1)。

●トンネル被覆と温度管理
トンネル栽培では2月上旬からビニールを覆って保温します。被覆してから2週間は密閉し、新芽や蕾が出るのを促します。この時期は畝に水分が十分あることが必要なので灌水は十分に行います。トンネル内の温度は35℃以上とし、5℃以下にしないことが大切です。温度が上がって過ぎるようなら、換気を行います。被覆後、新葉が出て生育が進み、蕾が着き、開花、結実となります。この時期で特に気を付けたいのが夜間の温度です。開花期は25℃、結実したら20〜23℃、色づき始めたなら18〜22℃前後を目安とし、換気で調節しましょう。

●春先の管理
イチゴは寒さに強いですが、花は0℃で枯死します。早めに出た花で黒くなっているものは取り除きましょう。また、花の大きさと葉柄の太さで果実の大きさは決まっていますので、大きい果実を収穫したい場合は小さい花は取り除き、栄養を後々の花の充実に向けましょう(資料2)。
外側の枯葉や古い葉を残すと病害虫の温床となるため、株元

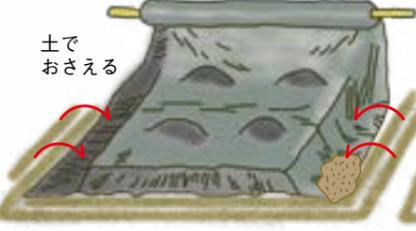
付近をすっきりさせ健全な生育を促します。収穫時に伸びてきたランナーは、養分を果実の充実に向けてため根元から取り除きましょう(資料3)。



ビニールトンネルは2月上旬からかけはじめます。密閉し、イチゴが伸びだしたら側方の裾を少しあけて換気します。夜間は閉めます。

資料1 マルチ・トンネルかけ

トンネル栽培では1月下旬、露地栽培では2月下旬からマルチかけを行います。



黒マルチをイチゴの畝の上ですっぽりかぶせ、四周の裾を土でしっかりとおさえます。



イチゴのあるところをハサミ等で十文字に切り開き、イチゴをフィルムの上のぞかせます。

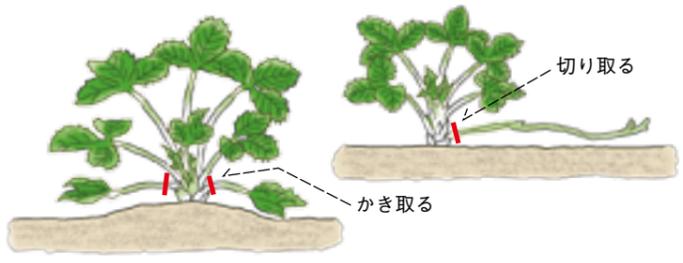
病気は灰色かび病、うどんこ病が、害虫はアブラムシ類、ハダニ類が発生します。定期的なイチゴの状態をよく観察しましょう。

小苗をとるのであれば、収穫が終わった6月以降のランナーを採取します。

春になり、ランナーが伸び出してきたら切除します。

資料3 春先の管理

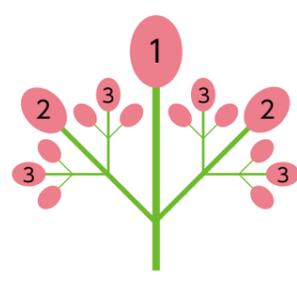
越冬後、盛んに生育しはじめてきたころ、下葉をかき取ります。



切り取る

かき取る

資料2 イチゴ果実の大きさの順番



花き



営農部指導課 中川 雄一

カラフルな鉢花が目を引く冬、工夫して長い間元気に咲かせましょう。

●共通の注意点
植物ごとに適した温度、光の条件を確認して置き場所を選びましょう。冬でも日光が当たる方がよいものがたくさんあります。窓際に置く場合は、夜間冷え込みすぎることがありますから、低温害に注意してください。

また、昼夜の温度が極端に違わないよう、温度差10℃程度を目指しましょう。

・暖房器具の温風はかなり高温だったり、乾燥して花や株が傷んだりします。エアコンやファンヒーターの風が直接あたるところには置かないようにしましょう。

・冬は予想外に土が乾きません。特に日射しが少ないところはなかなか乾きませんし、地温も上がりません。種類によって土壌水分の好みが違う、土壌による

水保ちの違いもありますから、水やりは土の水分を確認して、やり過ぎ・水切れのないようにしましょう。灌水後受け皿に出たきた水はすぐに捨てます。また、夕方水やりしたり、乾かないうちの灌水を繰り返すと、鉢土の水分が過剰で冷えた状態が長くなります。水やりは晴天の日の午前中を心掛けましょう。

・ガーデンシクラメンは耐寒性の強い原種の性質を引継ぎ、庭や寄せ植えで楽しむことができますが、それでも寒さで傷むことがあります。また、意外と寒さに耐えるハイビスカスなどでも、鉢だと根まで冷えてしまうので、屋外では一回り大きい鉢を重ねたり、寒風が当たらず、木の枝などが霜よけになってくれる日だまりのような場所を選んで、一工夫して保護しましょう。

●ポインセチア

観賞するのは冬ですが、メキシコ原産の常緑低木で、低温と過湿が苦手です。最低でも気温10℃以上を保ち、水やりは鉢土が乾いたのを確認してやるくらいが適当です。日当たりのよいところに置くことも大切です。低温や灌水過剰だと、根が傷んで下葉が早く枯れてくること

があります。放置すると、発色した苞葉だけ残して緑の葉が無くなりやがて枯れます。春まで緑葉を維持しましょう。春まで肥料は春になってから与えます。

●シクラメン

開花期の生育適温は15〜18℃とされますが、ポインセチアとは反対に、玄関など比較的涼しいところの方が元気に長く開花します。ただし、日照は必要ですから、短時間でも毎日日光を浴びられるようにしましょう。

時々暖かい日に屋外に出して日光浴させるのもよいでしょう。最近の鉢は底面吸水タイプになっていきますから、受け皿に水を補給するのが灌水です。ただし、いつも満タンにしたり、鉢底に水が届くほど入れたりしてると鉢土が通気不良で根が腐ることもあるので、ほとんど無くなったなら8分目くらいまで入れるようにしましょう。もし、葉が萎れかかったら急いで給水します。萎れても回復しますが、過剰になると小さな花蕾や新葉が枯れてしまいます。花は老化して色落ちしたくらい、葉も一部黄化し始めたくらいで茎の付け根から抜き取り、傷んだ茎を株に残さないようにすること(資料4)、葉組みをして株元の通気と日当たりをよくするのも

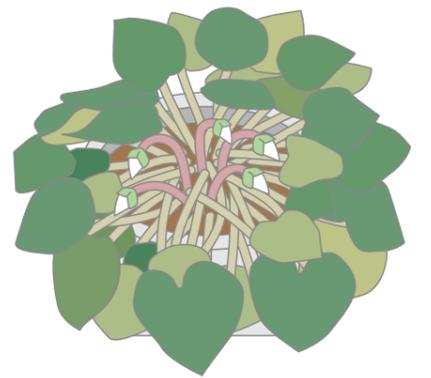
資料4 シクラメンの花から抜き

茎をひねりながら上に引き抜く



資料5 葉組みが終わったシクラメン

立っていた中央付近の葉を外に広げると、中心の芽に日があたり、通気もよくなる



果樹



営農部指導課
小野 智寛

せん定で刃物を扱う際は、十分に注意！

1月の主な作業はせん定や園地の清掃などです。ハサミやノコギリ等の刃物を使用する機会が増えるので、取り扱いには十分注意して作業を行いましょ。

●各品目の年間作業について

今回は資料6に果樹各品目の年間作業表を掲載しました。年間栽培計画を立てることで、事前に用具の準備やスケジュール調整などを行うことができます。

また、作業管理日誌を記帳しておく、過去の作業内容を確認することができるので便利です。

品種や栽培条件等によって作業や収穫時期に差がありますので、この表の通りにいかないこともあると思います。あくまで目安としてご利用ください。

●排水対策等

近年は、生育期間中に豪雨が降ることが多くなっています。排水不良になると根傷みを引き起こします。園内に過剰の水分が停滞しやすい場合は、時間に余裕のある冬季に排水対策をすることをお勧めします。明渠や暗渠を設置するときは、なるべく根を切らないように注意してください。

●脚立、三脚の使用について

果樹のせん定の時期には脚立や三脚を用いて高所で作業を行う機会が増えます。脚立や三脚は使用前に溶接部にひび割れがないか、変形が発生していないか、鎖や紐などの固定具に異常はないか等、点検や確認を行いましょ。

風の強い日や薄暗い状況での使用は避け、降雨後や園地が湿っている時、草が伸びている時には滑ることがあるので十分注意します。また、体調のすぐれない時には作業を中止してください。

斜面で三脚を使用する際には、支柱を斜面の高い方に突き立てるように設置します(資料7)。このとき、一段乗って手前に倒れそうな気配があれば、足を上げて設置し、安全を最優先にしてください。使用後は汚れを落とし、次に使う時も安全に使用できるように備えておきましょう。

●その他の留意点

せん定を行ったときに切り口の直径が百円玉を超えるようであれば、切り口には癒合剤(トップジンMペースト)の塗布を行い、枯れ込みや雑菌、雨水の侵入を防ぎましょ。

資料7 斜面への三脚の立て方



資料6 各品目の年間作業

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
品目	上 中 下			上 中 下			上 中 下			上 中 下		
桃	せん定		摘蕾 ▲	授粉 ■	摘果	袋掛、枝管理 ●	灌水		礼肥、芽接 ●	基肥		植付、せん定
ブドウ	せん定			▲	枝管理、花穂整形	GA処理 ■	袋掛、灌水		●	●	●	●
梨			せん定 ▲	授粉 ■	摘果、小袋		大袋、灌水					●
柿	せん定			▲	接木	授粉 ■	摘果、灌水				●	●
梅			●	▲	枝管理		●	●	●		●	●
ミカン			春肥、せん定		▲	●	夏肥	摘果	灌水		●	●
イチジク			植付、せん定		▲	芽かき、枝管理	追肥	灌水		●		●
栗	せん定			▲						●	●	●
スモモ	せん定		▲	授粉 ■	摘果、枝管理		●	●	●	●	●	●
キウイ	せん定			▲	授粉 ■	摘果、枝管理		●	●	●	●	●
リンゴ	せん定			▲	授粉 ■	摘果	袋掛、枝管理	灌水		●		●
ユズ			春肥、せん定		▲	●		●	●	●	●	●
ビワ		●	追肥 ▲	摘果	袋掛		●	●	●	●	●	●
黄桃			せん定	▲	授粉 ■	枝管理、摘果	●	●	●	●	●	●
ブルーベリー	せん定		基肥 ▲		●	追肥	●	●	●	●	●	●

注 ▲：萌芽 ■：開花 ●：収穫 GA処理：ジベレリン処理



栗けんちんの 漬けそば

作り方

- (1) 鍋にサラダ油を熱し、ゴボウ、ニンジン、鶏もも肉、栗を炒める。
- (2) (1) に漬け汁用の材料とほぐしたマイタケを入れ沸騰させ、中火であくを取りながら20分ほど煮る。
- (3) 器に(2)を盛り付け、いりごまとミツバをのせ、ゆでて冷水で締めたそばを添えて出来上がり。

レシピ提供 / 永井智一(ながいとまかず)
茨城県笠間市にある「天晴(旧キッチン晴人)」オーナーシェフ

材料 (4人分)

ささぎゴボウ	1本分
ニンジン(細切り)	1/2本
鶏もも肉(細切り)	1枚
むき栗	20粒ほど
マイタケ	1パック
サラダ油	大さじ2
漬け汁	
かつおだし	5カップ
しょうゆ	1/2カップ
みりん	1/2カップ
料理酒	1/4カップ
いりごま	適宜
ミツバ	適宜
干しそば	400g



色鮮やかな菊の花



あけましておめでとうございます。今月のあぐろグラムでは今支所の玄関に飾られている見事に仕立てられた菊をご紹介します。

飾られている菊を仕立てたのは今支所管内の池葉須悦夫さんと鷹取貞一さん。菊栽培愛好家として毎年後楽園で開催されている「おかやま菊花大会」にも作品を出品し、数々の賞を受賞されています。

菊は秋の花で有名ですが正月花としても使われ、最近では西洋品種も人気で、お正月の生け花やアレンジメントには、華やかなピンポンマムやスプレーマムなどの小型の菊が使われることもあります。

編集担当 久山 隆一